タイトル　PLAN OYAMA Vision to 2054

発行年月　2023年5月

発行　小山駅周辺地区まちづくりプラン検討委員会

問合せ　小山市まちづくり推進課
d-machidukuri@city.oyama.tochigi.jp

小山駅周辺エリアまちづくりプラン策定プロジェクト特設サイト

PLAN OYAMA

Vision to 2054



Oyama Station Area 2054

01



PLAN OYAMA

Vision to 2054

CONCEPT

PLAN OYAMA の コンセプト

Oyama Station Area 2054

大人が遊び、子どもが育つ。

「大人たちが自分らしく働き、遊ぶことができ、子どもたちが伸び伸びと遊び、学べ、成長できるまち」。

そんな小山駅周辺エリアをプランオヤマでは目指します。

子どもは小山の未来を担う大切な存在です。

子どもは身近な大人の姿を見ながら育ちます。

子どもが伸び伸びと成長できるようにするためには、子どものための環境はもちろんですが、大人が活き活きとするような環境も欠かせません。そのような環境をエリアの強みである豊かな自然や交通利便性を活かしながら創出していくことで、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすく、遊び、働きたくなる、多様な人や文化が集まる魅力的な小山駅周辺エリアが形成されると考えています。

EVOLVING GOALS

9つの目標

「Evolving Goals (進化していく、進化し続ける目標)」は、まちづくりの目標が固定されたものではなく、プランが策定された後も、社会状況の変化に応じて柔軟に変わっていくものである意味を込めて名付けました。

1 居住

まちなかに住んで
子育てしやすい





まちなかで便利で快適に暮らすことができ、まち全体で子どもを育てる雰囲気がある環境を目指します。

まちなかに住む人が自家用車や電車で遠出しなくても、図書館のような都市機能や日用品・嗜好品が揃う店舗などの生活機能が身近にあり、併せて、まち全体で子どもを育てる雰囲気や安心して子どもを遊ばせたり預けたりすることができる場所がある、生活面と子育て面が充実した環境を目指します。

2 仕事

自分らしく働き
やりたいことに
チャレンジできる





様々な世代やライフスタイルの人が、やりたいことや新しいことにチャレンジできる仕組みをつくり、自分らしく働くことができる環境を目指します。

まちなかに点在する空き店舗等で新規事業を開業しやすくなる仕組みやスタートアップ支援を充実し、出店意欲や起業意欲がある若者、新しいことにチャレンジしたい主婦層などを後押しすることで、誰もが自分らしく多様な働き方を選択できる環境を目指します。

3 遊び

子ども・学生・
大人もまちなかで
あそべる





多様なニーズを満たすコンテンツを充実させることで、郊外まで移動しなくても、子どもから大人まで楽しく遊べる環境を目指します。

祇園城通り・思川のような公共空間や、空き店舗・空き地などの遊休不動産を積極的に活用することで、日々変化するニーズに対応した多種多様なコンテンツを創出し、「まちなかに行けば何かがある」という期待感を持てるような、子どもから大人まで誰もが楽しめる環境を目指します。

4 交通

車やおーバスで
移動しやすく
周辺と繋がる





ユーザーに合わせた多様な移動手段を充実することで、誰もが目的地へアクセスしやすく、快適で自由度の高い交通環境を目指します。

おーバスなどの既存公共交通の利便性を高めることと併せて、定額制デマンドタクシーや電動キックボード、グリーンスローモビリティ※などの多様なモビリティの導入・連携を検討し、ソフトとハードの両面から移動手段の充実を図ることで、自家用車を持たない人や免許を返納した人、運転が苦手な人でも気軽に目的地にアクセスできる環境を目指します。自家用車以外の選択肢が増えることで、交通渋滞が緩和し、自家用車ユーザーにとっても移動しやすい環境を目指します。
(※時速20km未満で公道を走る電動車を活用した移動サービス)

5-9/9

9つの目標

EVOLVING GOALS

5 移動

バリアを感じず安全で
安心して歩きたくなる





道幅の確保や段差の解消と併せて気軽に休憩できるベンチなどを充実することで、ベビーカーや車椅子でも安全で安心して歩きたくなる環境を目指します。

歩行者専用道路による歩車分離や、階段とスロープの併設、段差の解消などを行うことで、子どもや高齢者、ベビーカーや車椅子を利用する人にとっても安全に歩ける空間を目指します。併せて、歩行者が気軽に休憩できるようなベンチやテーブルを設置したり、夜間でも安心して歩けるように街灯を整備することで、物理的・心理的バリアが無く、歩きたくなる環境を目指します。

6 コミュニティ

世代・性別・国籍を超えた
コミュニティの場と
繋がりがある





多様な人が暮らす小山市の中で、世代や性別、国籍に関係なく、広く緩く気楽に繋がり合うことのできる寛容な環境を目指します。

同じ属性や嗜好を持つ人はもちろん、自分と異なる世代・性別・国籍の人と触れ合うことができるようなコミュニティの形成を図ります。
様々な人や考えに触れることで、新たな知見や価値観を得られ、相互理解が進み、他者に対して寛容になれる多文化共生を促していきます。
「しがらみ」ではなく「つながり」が持てる、心豊かでいられる環境を目指します。

7 緑化

身近に緑を感じ
リラックスできる





緑に対して様々な意識を持って効果的にまちなかを緑化していくことで、身近に緑を感じリラックスできる環境を目指します。

公園整備だけにとどまらず、屋上庭園や壁面緑化、市民農園、グリーンインフラなどの様々な機能を持つ緑を効果的に配置し、それらを面的に繋ぐ緑のネットワークを形成することで、まちなかのどこにいても身近に緑を感じることができ、心地良く憩える環境を目指します。

8 自然

思川を活かし自然に
触れて学んで暮らせる





市民生活に寄り添ってきた思川の魅力を活かし、自然との触れ合いを通して新たな学びやライフスタイルを生む環境を目指します。

小山と思川の歴史は長く、舟運による輸送、屋形船、流し雛や花火大会など様々な利用がなされ、市民の生活に寄り添ってきました。
思川と周辺緑地の豊かな自然と景色を活かした自然教室やSUPのようなアクティビティを通して自然と触れ合うことで、時には学びの場として、時には遊びの場として、小山市民がそれぞれの想いを持ち、多様なライフスタイルを生み出していくことができる環境を目指します。

9 文化

小山の食・文化・アートに
触れられる





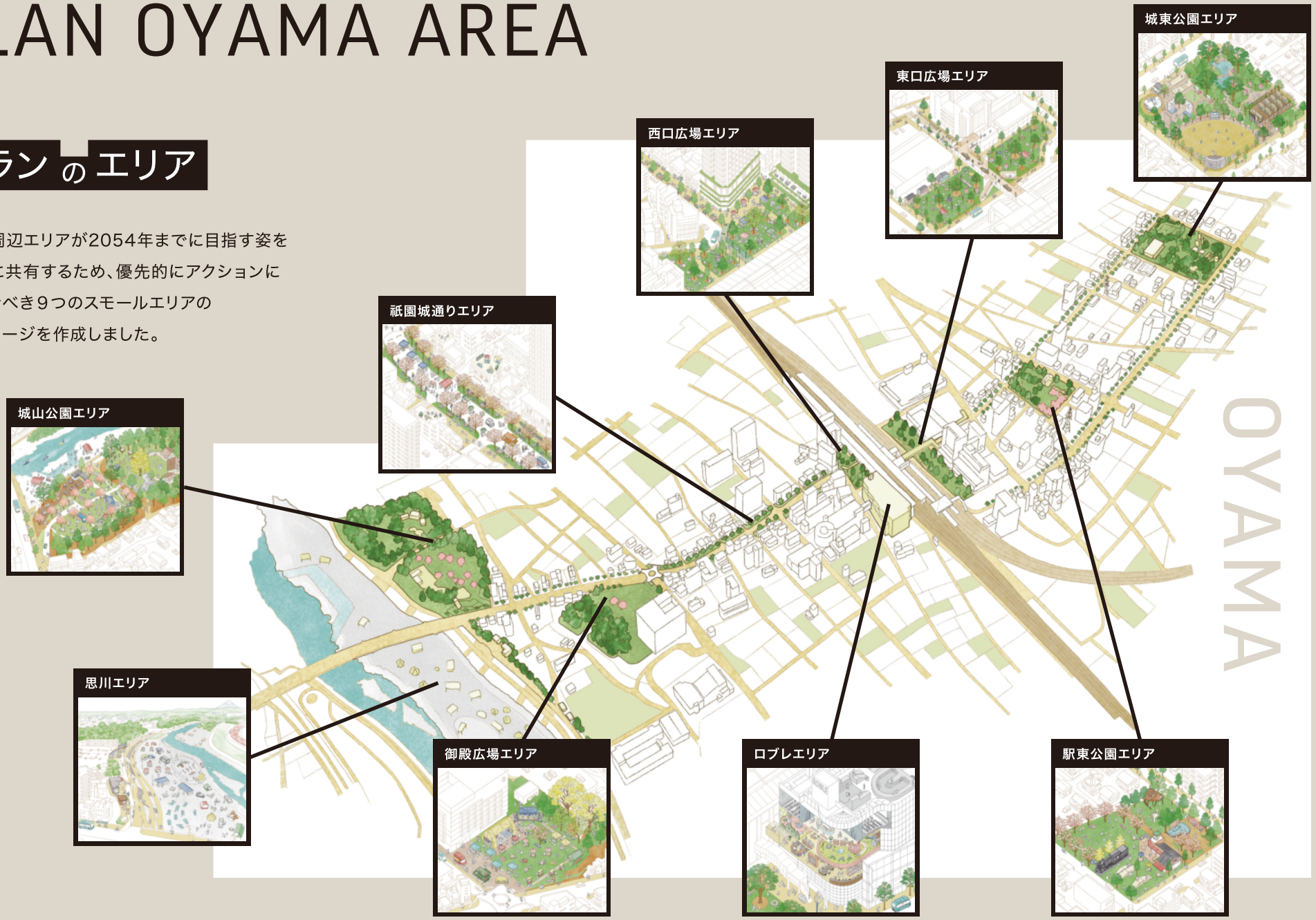
小山市の料理や特産品、文化、アートが集まり、他にはない小山ならではの魅力を感じることができる環境を目指します。

小山市内の各地域や近隣で採れる食材を活かした料理・特産品、地域祭事、市出身アーティストの作品など、様々な食や文化、アートが集まり、影響を与え合うことで、新たな食の楽しみや独自の文化、創造性豊かなアートが生まれ、他にはない小山ならではの魅力を日常的に感じることができる環境を目指します。

PLAN OYAMA AREA

プランのエリア

小山駅周辺エリアが2054年までに目指す姿を
視覚的に共有するため、優先的にアクションに
取り組むべき９つのスモールエリアの
将来イメージを作成しました。



OMOIGAWA AREA

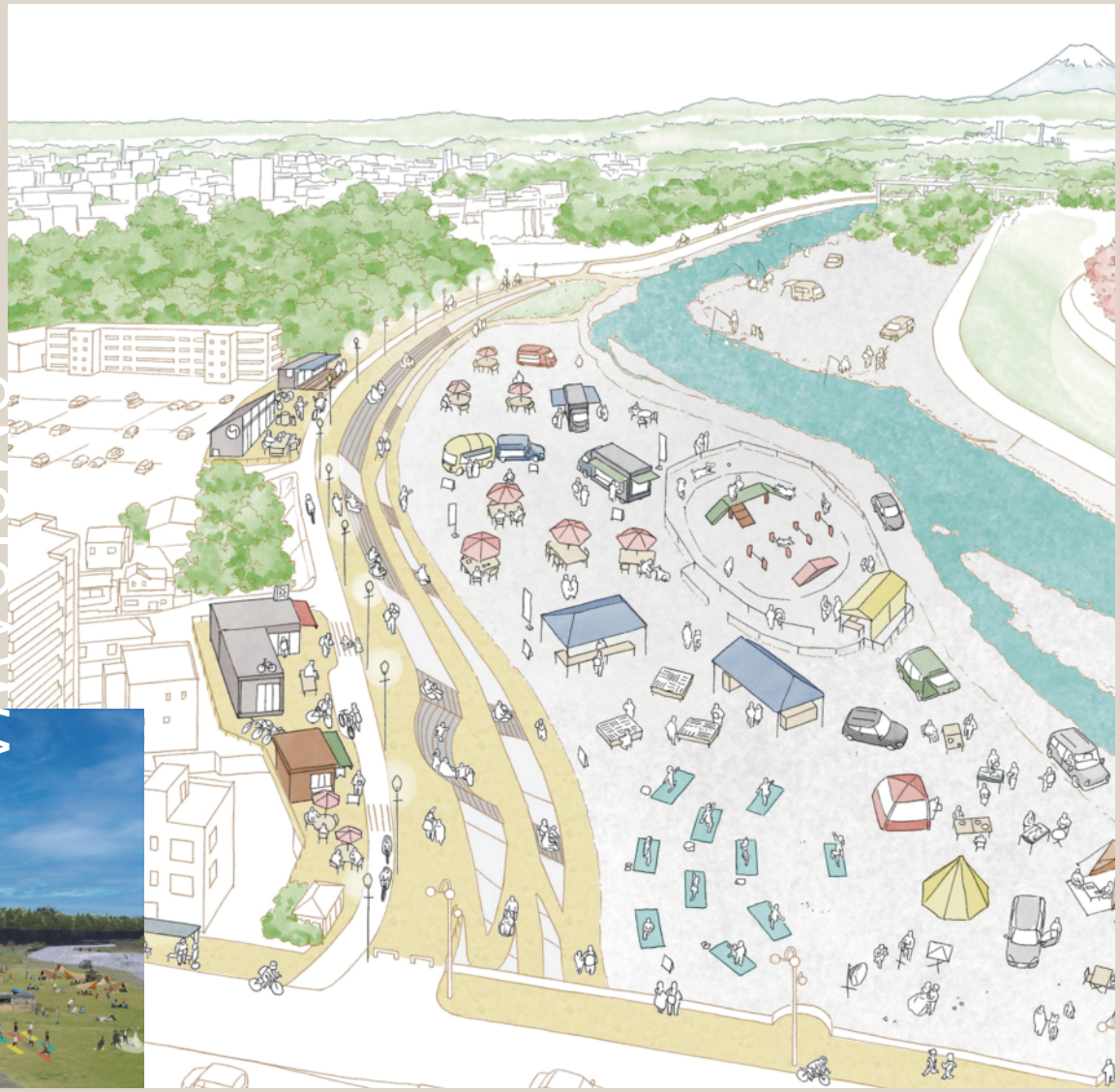
思川エリアのみらい

Concept

小山市民の生活に寄り添ってきた、豊かな自然と
美しい景色が魅力の思川をコアとするエリア。
思川の魅力を活かし小山への愛着がより一層深まるような、
市民が気軽に訪れ、遊び、憩える、居心地の良いエリアを目指します。

Project ideas

・カフェ等が開業できる仕組みの設計
・思川と小山総合公園を繋ぐサイクリングロードの整備
・スロープ整備等による水辺アクセス性の向上
・水遊びができる親水空間の創出
・イベント出店ができる制度の設計
・トイレを景観と調和するデザインに改修
・水辺アクティビティ事業の開業
・ゆったり過ごせる滞在空間の創出
・ドッグラン等による河川敷の活用
・ウェディング事業等の新規コンテンツの創出
・観晃橋のライトアップによる
　夜間来訪機会の創出
・景観と調和するデザイン性の高い
　照明の整備





SHIROYAMA KOEN AREA 2/9

城山公園エリアのみらい

Concept

思川左岸に隣接し、国史跡であり都市公園でもある、貴重な
歴史資源と豊かな緑が魅力の城山公園をコアとするエリア。
史跡を活かしながら、思川との一体的な空間活用を行い、
歴史と水と緑を感じられる学びと体験のエリアを目指します。

Project ideas

・カフェ等のゆったり過ごせる滞在施設の設置
・フェスやマルシェ等のイベント開催
・豊かな自然環境の保存
・城山公園と思川のアクセス性の向上
・サイン等による史跡情報の発信
・自然を活かしたキャンプ事業の開業

SHIROYAMA KOEN





GOTEN HIROBA AREA

3/9

御殿広場エリアのみらい

Concept

市役所北に隣接し、国史跡であり都市公園でもある、開放的な
芝生広場が魅力の小山御殿広場をコアとするエリア。
史跡を活かしながら、まちなかの貴重なオープンスペースとしての
機能を活かし、イベントやピクニックが楽しめる、
日常の一部となるエリアを目指します。

Project ideas

・日常的に親子でピクニック等が楽しめる空間にする
・イベント時も活用できるサーカスの仮設テントのような
　休憩スペースの設置
・公園や店舗でペットと共に過ごせる仕組みの設計





GIONJO DORI AREA

4/9

祇園城通りエリアのみらい

Concept

小山駅と、思川や城山公園、小山御殿広場を繋ぐメインストリートである祇園城通りをコアとするエリア。通りを軸にコンテンツが溢れ、歩行ストレスとなる障害が無く、植栽帯の充実により緑を感じる、居心地が良く歩きたくなるエリアを目指します。

Project ideas

・ベンチやパークレットを設置し親子で歩きたくなる空間を創出
・通り周辺の出店を促進する仕組みを設計
・歩行者天国の社会実験を実施
・通り周辺の空き店舗空き地を学生の遊び場に活用
・継続的に人の流れを生むためイベントを毎週開催
・緑化により居心地の良い空間を創出
・駅前区間の歩行者優先道路化により駅前から安心して歩ける空間を創出
・サイン等を設置し歩いて歴史を学べる空間を創出
・通りのライトアップによる夜間歩行機会の創出
・歩道に街路樹を増やし木陰を確保
・歩道を活用しストリートライブや
　パブリックアート等が楽しめる空間を創出
・横断歩道を増設し移動しやすい空間を創出
・グリーンスローモビリティの運行
・通り周辺の建物壁面緑化、屋上緑化
・上町交差点のスクランブル化
・通り沿いの駐車場を裏通りに配置転換
・通りに公衆トイレの設置
・交差点に信号待ちスペースの整備





ROBLE AREA

5/9

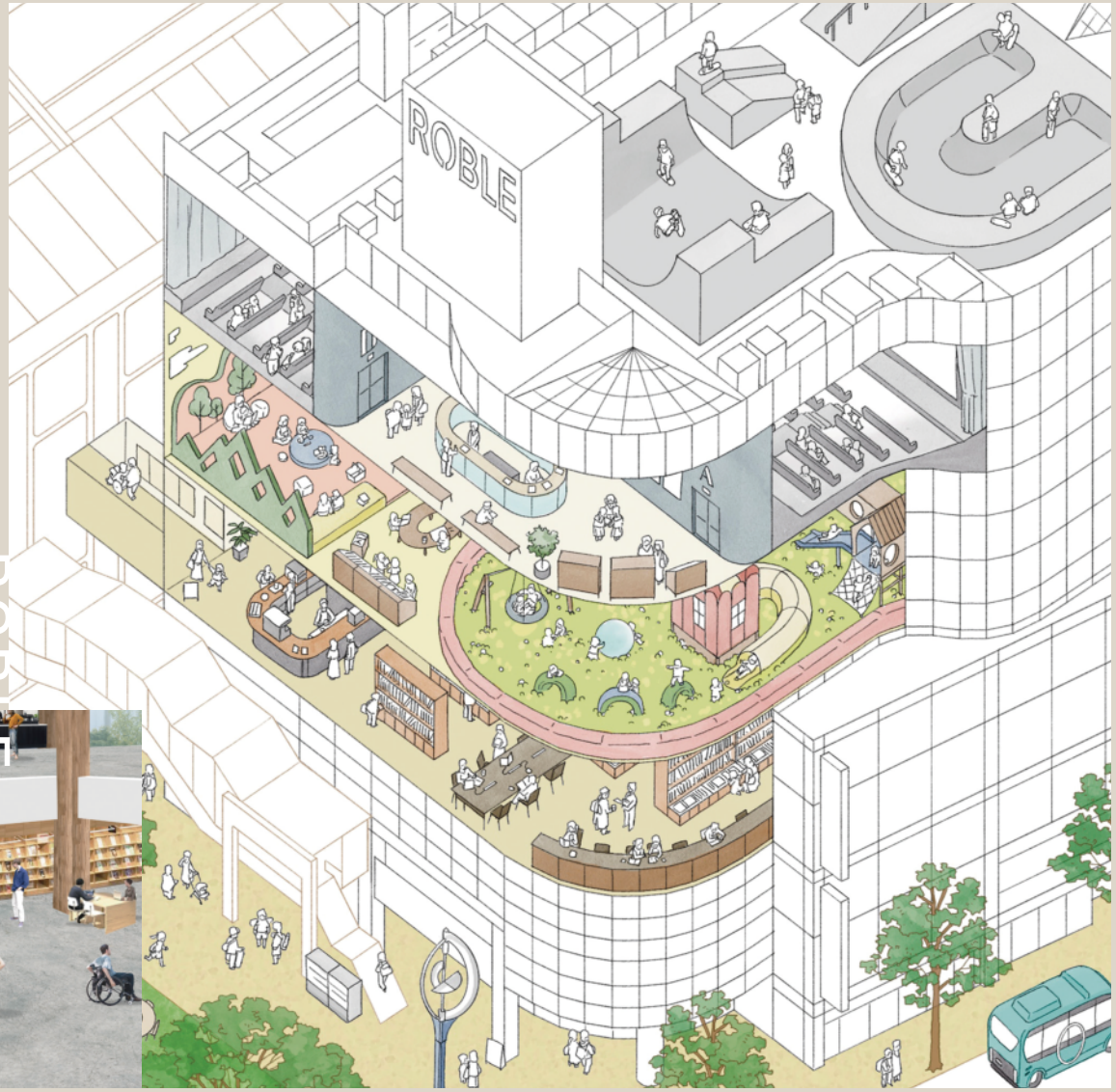
ロブレエリアのみらい

Concept

小山駅に接続する、小山の再開発ビル第一号である
商業施設ロブレをコアとするエリア。
駅直結のアクセス性を活かし、通勤通学者が利用しやすい子育て支援施設や遊び場、
学習・ワークスペース等を充実することで、生活の拠点となるようなエリアを目指します。

Project ideas

・魅力的な飲食店や吹き抜けフロアの緑化等による高質空間の創出
・親子で行けるランチスポットや送迎ステーション、病児保育等の子育て関連施設を設置
・ロブレと駅を結ぶ通路のバリアフリー化
・ロブレ駐車場の改修による利便性の向上
・若い世代が楽しめるスケボーパーク等による屋上の活用
・カフェ等の飲食機能やコワーキングスペースを併設した複合図書館の設置





NISHIGUCHI HIROBA AREA 6/9

西口広場エリアのみらい

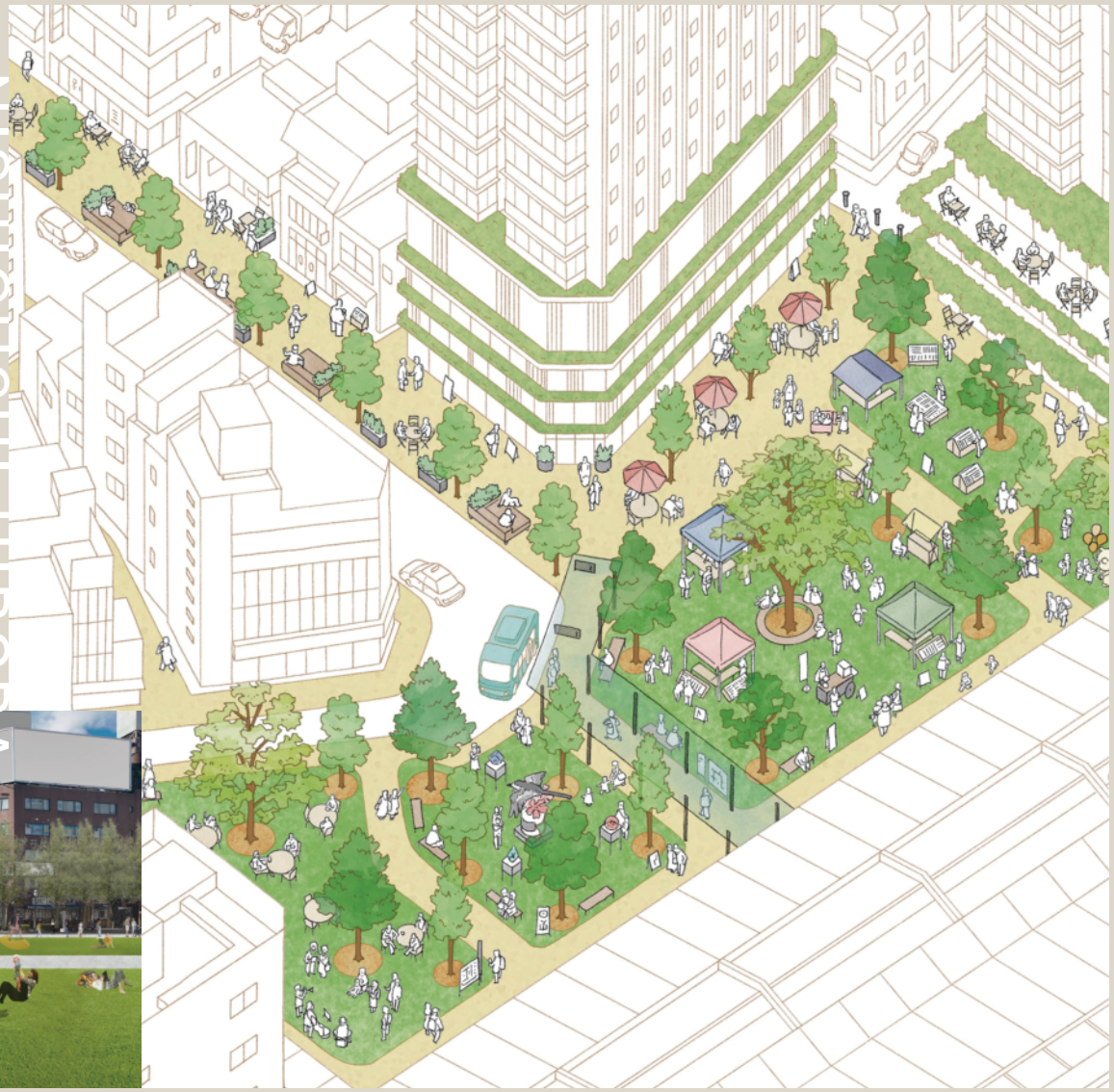
Concept

交通の要衝として小山の発展を支えてきた、多くの人が行き交う西口広場を
コアとするエリア。
車中心から人中心とした緑溢れる空間とすることで、駅を介して
子どもから高齢者まで様々な人が集い・交わる、小山の玄関口を
印象付けるエリアを目指します。

Project ideas

・バスの本数やルートの拡充による市内移動の充実
・ベンチやテーブル等の設置による心地良い滞在空間の創出
・オープンテラスのあるカフェの充実
・定額制デマンドタクシーやシェアサイクル、電動キックボード等の
多様な交通サービスの導入
・フィルムコレクション等の企画や
パブリックアートにより身近にアートに
触れられる機会を創出
・買い食いができる環境の創出
・保育園の散歩道を子どもの
記憶に残る明るい空間にする
・自家用車進入規制による親子で
安心して歩ける空間の創出
・オフィスビル誘致による雇用機会の充実





HIGASHIGUCHI HIROBA AREA 7/9

東口広場エリアのみらい

Concept

小山駅中央自由通路の開通をはじめ、大学やマンションなど、開発の進む
東口広場をコアとするエリア。
歩行者と自動車、公共交通の動線整理と併せて、駅利用者が
滞在できる空間にすることで、安全で快適に移動でき、
集いたくなるエリアを目指します。

Project ideas

・自家用車とバスのレーン入れ替えによるバス利用の安全性の向上
・ペデストリアンデッキ整備によるアクセス性や交通安全性の向上
・道の駅にあるような休憩スペースの創出
・文化交流施設の設置
・広場の緑化やカフェ等の滞在空間の充実による賑わい創出や治安の改善
・駐輪場の配置やデザイン、利便性の改善
・自家用車や公共交通、タクシーの
ゾーニング再構築





EKIHIGASHI KOEN AREA

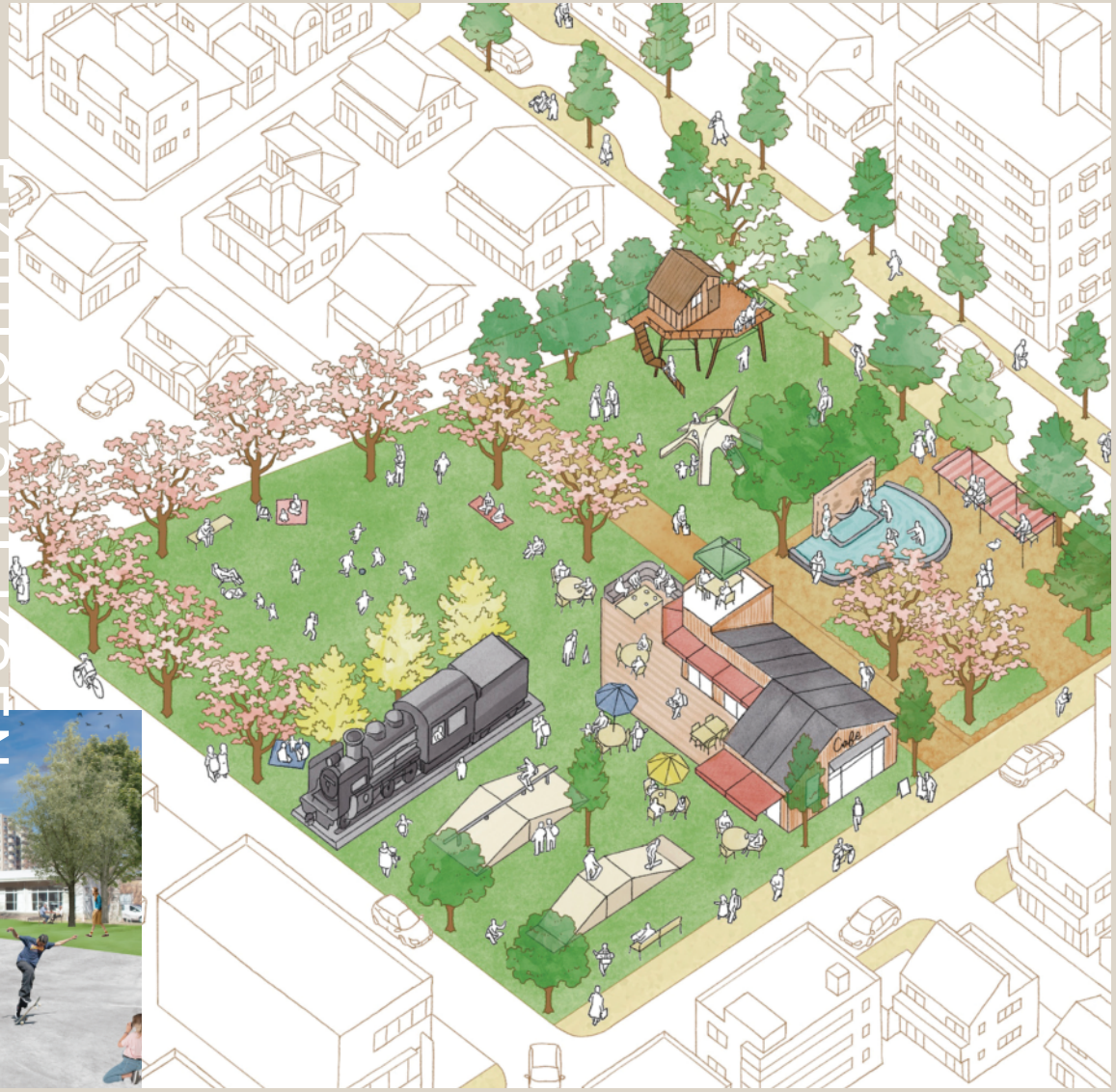
駅東公園エリアのみらい

Concept

小山駅近くに立地し、汽車の展示や特徴的な遊具が魅力の駅東公園を
コアとするエリア。
汽車を始めとする既存施設を活かした公園リニューアルと併せて、駅からの
歩行アクセス性を改善することで、地域住民や学生、駅利用者が
楽しめるエリアを目指します。

Project ideas

・適切な樹木剪定等により明るい雰囲気を形成
・既存遊具や汽車を活かし学生や駅利用者をターゲットとしたコンテンツが
充実した公園にリニューアル
・柵や樹木配置の改善により安全性を確保しながら開放的な空間を創出
・公園北側街路の整備による安全な歩行空間の創出





JOTO KOEN AREA

城東公園エリアのみらい

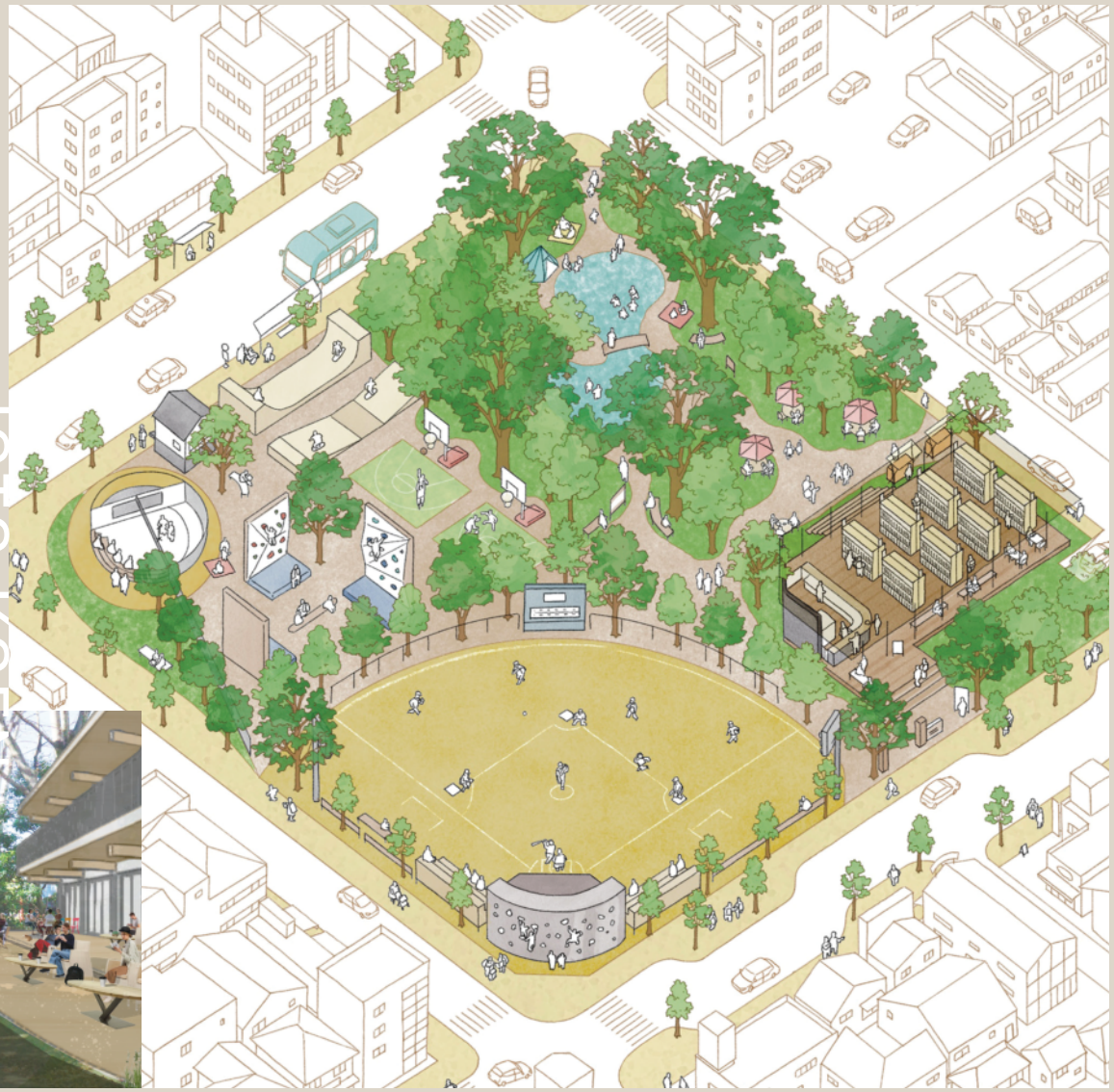
Concept

住宅街に立地し、中央図書館や野球場・ストリートスポーツゾーン、
豊かな緑が魅力の城東公園をコアとするエリア。
図書館へのカフェ併設やニュースポーツへの対応など、既存施設の
機能を高める公園リニューアルを行い、地域の子どもから大人まで誰もが
楽しめるエリアを目指します。

Project ideas

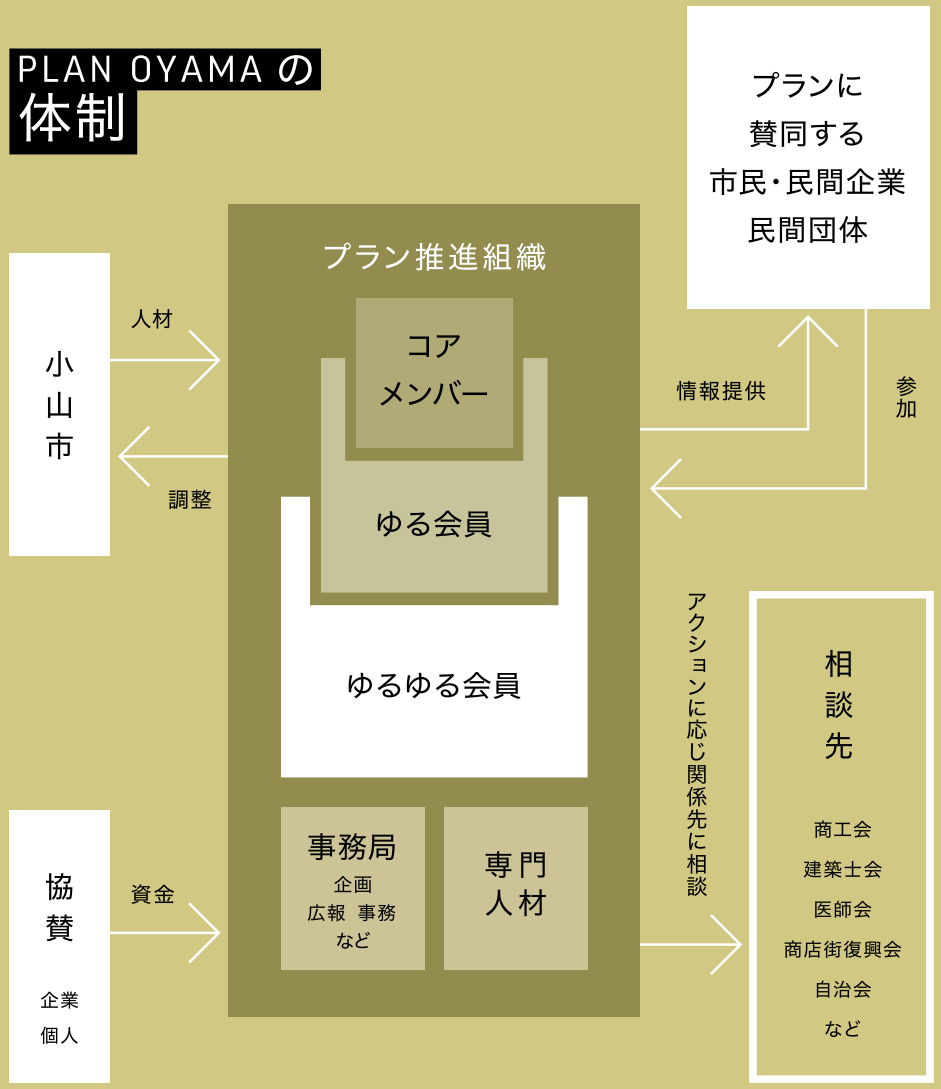
・図書館利用者や地域住民が過ごしやすい公園にリニューアル
・公園と一体感のある開かれた図書館にリニューアル
・ステージ城東のイベント活用
・気軽に立ち寄れるカフェを図書館に併設
・野球グラウンドを音楽フェス等の別用途で活用
・子どもが水遊びできる親水空間を整備
・通りからの公園アクセス性の改善
・バスケ等のストリートスポーツゾーンの充実





STRUCTURE

PLAN OYAMA の体制



コアメンバーからのメッセージ



阿久津 治

阿久津産業(株)代表取締役
小山駅西口青年部活性化委員会　会長

このPLAN OYAMAでは、官民が共に垣根なく、まちの将来を考えるはじめての取組みです。共に手をとればできないことはない！理想とする街に近づいてきたと思います。古き良きものを携えながら新しいことにチャレンジすることが大切だと思います。



飯野 佳昭

(株)グレイド　代表

市民・企業・行政の連携が大切。このプロジェクトをきっかけに、たくさんの方がまちづくりに関心を持ち、一緒に築き合えると良いですね。そんな街の賑わいが創出できる一助になれたら嬉しいです。



柳 裕淳

(有)銀星会館　取締役

小山市内でエンタメに関わる仕事に携わりながら、もっとこの街でより魅力的に活発に文化に触れられる機会を増やせないかと模索してきました。行政や企業と手を携えながら、未来の〝特別な街”づくりへの一助になりたいと、このプロジェクトに参加しています。



長峰 沙織

ブロガー、Webサイト運営

札幌から小山市へ越してきて、小山をもっと知りたい・好きになりたいという想いでサイトを立ち上げ、運営しています。自分の街に誇りをもって暮らすと、生活の幸せ度がきっと上がるはず。みんながそう思える街により近づいていくことを信じて活動しています！



渡邉 正道

友井タクシー有限会社　専務取締役
城山町三丁目第二地区市街地再開発関係

毎日、弊社タクシーやおーバス等が市内を走り回っております。ウォーカブルシティを基本に、交通を含めた将来の魅力的で住みやすい小山駅周辺を作るためにどうすればいいか、日々考えております。今後もトータル的なまちづくりに携わっていきたいです。



福本 佳之

(株)Vi Pass 代表取締役
小山商工会議所青年部　直前会長

学習塾や学童保育を経営する中で、「地域コミュニティの革新」が私のミッションです。まちづくりは人づくり。教育とまちづくりは未来の日本を**創ることに繋がります。地域の人々が繋がり、「自分事」としてまちづくりに参画できるよう、微力ながら発信していきます。**



速水 一成

ゴーイングファクトリー(株)
小山青年会議所　第52代理事長

青年会議所にも所属しており、シビックプライドを市民の人たちに醸成させていきたいと考えています。栃木県民は地元を卑下してしまいがちですが、言葉は魂で、リアルに反映されてしまうと思う。こういうところがあってすばらしいと言えるようなまちにしていきたいです。



小林 千恵

ピクニックマルシェ実行委員会

広い芝生で子供達に元気いっぱいに遊んでもらいたくて♡ 美味しいものがあって、ちょこっとお買い物ができてワクワク笑顔溢れるピクニックマルシェ みんなが待ち遠しくなる、記憶が残るイベントを作っていけたらいいな♡ 特別な空間が日常になりますように☆



藤沼 英介

Cafe FUJINUMA(飲食店)経営

2013年に『NEW STANDARD FROM OYAMA』という理念を掲げて小山駅西口にCafe FUJINUMAを開業しました。今まさにPLAN OYAMAでの活動が理念そのものだと感じています。自分達の街を自分達で面白くしていきましょう。



立堀 裕保

畳職人　㈲立堀タタミ内装
小山駅西口商業振興会

「心地よいから」という理由で、人が集う街並み、空間が多くあるといいですね。ブラブラと道を歩けば、足元には季節の花が咲き乱れ、歩き疲れればちょこんと座れる椅子やベンチが沢山ある。お店や家の中から外を見てみれば緑、緑、緑。そんな「心地よいから」が溢れていれば、いいなって思っています。

MESSAGE

小山のみらい

PLAN OYAMA（プランオヤマ）は、小山駅周辺エリアの2054年までのまちづくりビジョンとして作成しました。

2054年は小山**市制**100周年の節目の年であり、プランを策定した2023年に生まれた子どもは30代になっています。そのとき、小山駅周辺エリアはどのようになっているのでしょうか？「こんな夢計画は無意味。現実を見ろ。」「予算はあるのか。誰がやるのか。」。プランを見た人の中には、このように思う方もいるかも知れません。プランの全てを実現するのは困難かもしれませんし、整備にはお金がつきものです。

しかし、まちづくりで大切なのは “ブレずに継続して取り組むこと” であり、そのためにまず必要なのは、実現性や予算ではなく、小山で暮らし、学び、働く私たちが、“小山をどうしたいのか。そのために何をするのか。” をビジョンとして明確にし、エリアで共有することだと考えています。また同時に、市民性を高めていくことも重要です。小さなことから市民一人ひとりが意識して取り組めることは沢山あります。「花火大会後にゴミひとつ無い駅前にしよう」。そんなことから誰もが少しずつアクションできるまちならば、プランの実現も夢では無いような気がしませんか？

全米一住みたい都市として有名なポートランドは、1960年代は車中心となったダウンタウンを人が歩かなくなり廃れていましたが、明確なビジョンを掲げて戦略的に取り組み続け、今の姿となりました。日本有数の大都市である横浜市は、1970年代からまちづくりの目標を定めて都市デザインに取り組み続け、現在の高質な都市空間を形成しています。昨今では、前橋アーバンデザインを策定した前橋市のように、地方都市でもビジョン設定型のまちづくりが動き始めています。

私たちが、そしてプランを手にした人々が、2054年のゴールを目指しまちづくりのバトンを繋いだ先に、どのような小山駅周辺エリアとなっているのか、今からとても楽しみです。

2023年5月22日
まちづくりプラン検討委員会

